

全ての関わりを大切に

今週は三者懇談ウィークです。お仕事等でお忙しいところ保護者の皆様に学校に来ていただいています。生徒の皆さんの成長につながる懇談となることを期待しています。

現在、多くの保護者が仕事をもってみえます。従って、緊急時や予定外の時は、おじいさんおばあさんが学校に足を運んでくださることが多いようです。今のおじいさんおばあさんは運転ができるので、フットワークがいいですね。

当然のことながら、私にも祖父母がいました。私の祖父母は、皆さんのおじいさんおばあさんとはかなり違っていました。運転免許は当然ありません。孫の接し方についても、当時ならではのものがありません。

例えば、あいさつ。私のしつけ担当は祖母でした。私は、あいさつについて次のように祖母にしつけられました。

「『安藤さん、この孫はあいさつしない』なんて言われたら、安藤家の恥やで、自分から大きな声であいさつしなさい。」しつけの仕方として適切かどうかはわかりません。しかし、幼かった私は、先祖に恥をかかせてはいけなさと素直に思い、積極的に大きな声であいさつをしていました。今は家のためにあいさつをしているわけではありませんが、心の片隅にやきついた祖母の言葉がいつも蘇ってきます。

「左手で字を書くなんて見苦しい！右手で書きなさい。」明治生まれの祖母の価値観でした。左利きの私は、小学二年の時に祖母からこう言われ、書道塾に入られました。お陰で今は右で字が書けますし、国語教師である今、筆で文字を書くことに抵抗がなく、大いに感謝しています。

軍人だった祖父は、無口で達筆な人でした。多くを語らない人でしたが、孫の書道には興味をもち、独自の方法で私に書道を教えてくれました。子供心に、祖父が達筆であることが妙にうれしかったことを覚えています。

自分の家のことばかりになって、ごめんなさい。皆さんのおじいさんおばあさんと関わり方は違いますが、私も祖父母と「当時ならではの」関わり方をもってきました。

祖父母は当の昔にこの世を去りました。しかし、みなさんがおじいさんおばあさんの車に乗っている姿を見ると、私の中に、死んだ祖父母が蘇ってきます。「雅哉、ちゃんとあいさつしとるか」「字を書くときは姿勢が大事やぞ」と、天国の祖父母に言われているような気がしてきます。

考えてみれば、親だけではなく、おじいさんおばあさんを初めとして、兄弟姉妹、叔父叔母との関わりが皆さんにはあるはず。その全ての関わりを大切にしてほしいと願っています。

(十二月二日 記)